

# コンパス薬局 スキルアップ勉強会

2016.02.26 佐藤

## 第47回 『選択的ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体拮抗薬 タリオン錠』

田辺三菱製薬 野村慎也 様

出席者：華岡肇先生 作佐部 近藤 佐藤 川原 佐藤 小西 木本 阿部 青野 佐藤

現在、4人に1人は花粉症といわれている。花粉症とはズギやヒノキなどの植物の花粉が原因となってくしゃみ・鼻水などのアレルギー症状を起こす病気である。様々な薬剤の効果測るため、厳密な暴露コントロール下で花粉症症状を誘発できる花粉暴露室を用いることで客観的薬効評価が可能となった。今回は選択的ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体拮抗薬であるタリオン錠(ベポタスチンベシル塩酸)について学習した。

### 【効能効果】

成人：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚掻痒症)

小児：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚掻痒症)にともなう掻痒

### 【用法用量】

成人：通常、成人にはベポタスチンベシル塩酸として1回10mgを1日2回経口投与する。なお年齢、症状により適宜増減する。

小児：通常、7歳以上の小児にはベポタスチンベシル塩酸として1回10mgを1日2回経口投与する。なお年齢、症状により適宜増減する。

### 【作用機序】

ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体拮抗作用とアレルギー性炎症における好酸球機能を抑制する作用により、抗アレルギー作用を発揮すると考えられている。

### 【特徴】

- ・花粉暴露室を用いた ACTIONstudy(花粉飛散期の1日を想定)においてスギ花粉暴露10分前の服用でもプラセボと比較し鼻三症状(くしゃみ、鼻汁、鼻閉)を抑制した。
- ・花粉暴露室を用いた ACTIONstudy II(花粉飛散シーズン全体を想定、初期療法をイメージ)においてスギ・ヒノキ花粉連日暴露1日前からの服用においてもプラセボと比較し鼻三症状(くしゃみ、鼻汁、鼻閉)を抑制した。
- ・花粉暴露室を用いた ACTIONstudy III(花粉暴露後に症状発現が認められた被験者に対する評価)においてスギ花粉暴露後60分後に症状発現患者の服用でもプラセボと比較し鼻三症状(くしゃみ、鼻汁、鼻閉)、パフォーマンス低下を抑制した。
- ・花粉暴露室を用いた ACTIONstudy IV(プラセボ経口投与後にスギ花粉を暴露し症状発現が認められ季節性アレルギー性鼻炎患者に対する評価)においてフェキソフェナジン/プロイドエフェドリン配合錠とクロスオーバー試験した際、両者に有意さは認められず同様な有効性を有することが示された。
- ・OD錠もあるので錠剤が苦手な7歳以上の小児、水分制限のある患者でも服用しやすくなる。

### 【副作用】

成人・小児ともに主なものは、眠気、口渇、AST上昇など。

### 【考察】

アレルギーの三大症状である鼻汁・くしゃみ・鼻閉において効果が高く、パフォーマンス低下も抑制する。また花粉暴露直前、症状発現後の服用でも効果が期待できる。

### 【質問】

Q:気道内の好酸球浸潤抑制のデータは鼻粘膜でも同様か？

A:鼻閉症状は炎症組織に血管から好酸球などの炎症細胞が浸潤し LT,PAF が遊離され血管透過性を亢進させ炎症性に粘膜が膨張することによりおこると考えられている。タリオンは好酸球浸潤を協力的に抑制することが確認されたことから鼻閉に対しても効果的と考えられる。